

BLOF栽培マニュアル

BLOF栽培の流れと留意点を下記に示す。

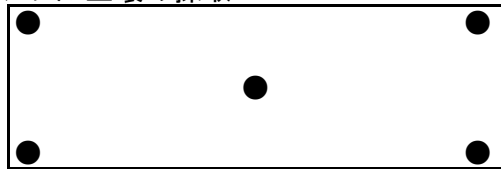
1 土壌成分分析

(1) BLOFWare申込(BWD登録)【マイナビ農業BLOFWare申込から登録申請】

- ① メールアドレス入力⇒送信
- ② ユーザー登録に使用するURLが送信
- ③ 登録したIDとパスワードを入力しログイン⇒ほ場情報一覧
- ④ ほ場情報を登録
- ⑤ BWD登録完了

(2) サンプル土壌の送付

① サンプル土壌の採取



- 1) ほ場一筆に付き上図の箇所から採取し、よく混ぜたもの茶碗一杯分程度のサンプル土壌を作る
- 2) 土壌は適度に湿り気のある、通常のほ場状態に近いものを採取する

② 土壌分析の依頼

- ・土壌サンプルと申込用紙の送付

(3) 土壌分析

結果はJBFからメール又は郵送で通知

2 施肥設計及び肥料調達

(1) 施肥設計

① 土壌分析結果の入力

- 1) BWDに登録したほ場をクリックし、栽培期間の新規登録から作物の情報を登録する
- 2) 登録された栽培期間をクリックし、土壌分析結果の入力画面で情報や数値を入力
- 3) 保存をクリックし入力データを保存する
- 4) 施肥設計に進むをクリックし、分析結果が反映された施肥設計画面が表示

② 施肥設計の作成

- ・耕耘深度を設定する

②-1 基肥の施肥設計

- 1) 施肥設計作業タグに「基肥」が選択されていることを確認する
- 2) 施肥窒素量を入力
- 3) 「堆肥の窒素」の「不足窒素量」と「施肥窒素量」が同量となるよう肥料分類「堆肥」の必要量を調整する
- 4) 「アミノ酸の窒素」の「不足窒素量」と「施肥窒素量」が同量となるように肥料分類「堆肥」以外の肥料の必要量を調整する
- 5) シミュレーショングラフを確認し、土壌成分の内下限値を下回っている物がある場合はミネラル肥料を再度施肥する
- 6) 「設計完了」ボタンをクリックし施肥設計を完了する

(2) 肥料調達

ジャパンバイオフィームのWebサイトから購入する

3 太陽熱養生

(1) 菌培養(10a当たり)

① 納豆菌

- 1)納豆(有機、ひきわり、匂い無し以外のもの)3種類をかき混ぜ、粘液のみをミネラルウォーターまたは汲置など脱塩素処理した水道水で荒い出し、同様の水20Lを入れたタンクに投入する
- 2)糖を水量の3～5%(きび砂糖750g袋1)とタンパク質を水量の1%程度(豆乳200mlパック)を投入する
- 2)エアレーションし30℃で12～24時間維持する
- 3)PH5.0以下になれば完成

② 酵母菌

- 1)市販のドライイースト1箱、糖を水量の3～5%(きび砂糖750g袋1)をミネラルウォーターまたは汲置など脱塩素処理した水道水20Lを入れたタンクに投入する
- 2)エアレーションなし(嫌気性)で容器の蓋を緩め24時間維持する
- 3)PH5.0以下になれば完成

③ 乳酸菌

- 1)カゴメラブレ1本、糖を水量の3～5%(オリゴ糖50ml)、タンパク質を水量の2～3%(豆乳30ml)をミネラルウォーターまたは汲置など脱塩素処理した水道水1Lを入れたペットボトルに投入する
- 2)エアレーションなし(嫌気性)で容器の蓋を緩め3～5日間維持する
- 3)PH5.0以下になれば完成

(2) ほ場散布

- 1)培養した菌3種を混合・希釈しほ場に散布する
- 2)施肥設計で算出したBLOF堆肥又は中熟堆肥(2t/反)を施用する

(3) 耕起・畝立て

充分耕耘し畝を立てる

(4) 散水

土壌水分量60%まで散水し、中熟堆肥を溶かす

(5) マルチ張り

透明シートで畝全体を覆い、シートの四辺にしっかり土をかぶせて密閉する

(6) 太陽熱養生

- 1)表面下5cm程度の地温を測定し、1日の最高温度×日数の積算温度が300℃～900℃になるまで行う
- 2)養生期間中に鳥などによりマルチに穴が空いた場合は逐一テープで塞ぐ

4 播種・定植

(1) 播種・定植

- 1)太陽熱養生終了後マルチを剥いで2～3日後に行う
- 2)BLOF栽培は水分消費が大きいいため、発芽及び定植後に継続して灌水を行う

5 追肥

(1) 追肥

追肥が必要な場合は、BWDの追肥の施肥設計を行う